

1年ぶりの「一般質問」

「水産政策の改革」について



県としては、共同漁業権は従来どおり漁協や漁連に許可する見込みであり、特定区画漁業権や、定置漁業権についても、これまで漁場管理や資源管理の中核を担ってきた漁協等の役割を重視して、漁業者や漁協等と相談しながら適切に対応して行く考え方を示しています。

同じ日の中日新聞にも、「秩序が乱れる」などの反対意見や「斬新な発想やノウハウが期待できる」賛成意見なども記載されていました。

今後も注目して行きたいと思っています。

去る11月29日、一年ぶりとなる一般質問を行いました。県議会では、一般質問の時間を各会派毎に割り振りするため、私が質問できる機会は一年間で今回の一時間しかありません。

そこで、今回取り上げた質問は、本年6月、政府が水産資源の適切な管理と成長産業化を両立させ、漁業者の所得向上と年齢バランスのとれた漁業就業構造を確立することを目的とした「水産政策の改革」について行いました。

現在、漁場の管理は海女さん達が操業している「共同漁業権」、黒ノリや鯛、ハマチ等を養殖している場所の「特定区画漁業権」、大型定置網を設置している「定置漁業権」があり、何れも地元の漁協や漁連などに優先的に許可されていますが、今後は「共同漁業権」はそのまま維持されますが、「特定区画漁業権」、「定置漁業権」については優先順位が撤廃されて、適切に活用していないと判断されたときには、会社などの企業に許可されるという変更も含んだものになっています。

漁業者の方からは、企業が入ってきた場合、「利益を追求するあまり共同管理できない区画が虫食い状態になってしまう」、「共有資源は利用者がルールを守ること適切に管理されてきているが企業は自らの利益を最大化しようとし、乱獲で資源が枯渇してしまうのではないかと、また過密養殖で海が汚れる恐れもある」等、成り行きによっては今後の動向に危機感を抱く声が多数あります。

現場de県議会 in 亀山

多文化共生の社会を考える

三重県議会では、公聴広報会議が中心となって議員が直接現場へ出向き、その地域の課題や三重県が取り組んでいる事業について意見交換を行う場として、「現場で県議会」という事業を行っています。

今回は、亀山市文化会館において「ダイバーシティ（多文化共生）社会の推進」について意見交換を行いました。

参加者は、外見からは障害や病気を抱えた方が援助を必要としているときにその意思を伝える（ヘルプマーク）を推進している方や、体と心の不一致による「性同一性障害のある方」、松阪フィリピン協会の方々です。

意見交換では、鳥羽市ではあまり話題にはなっていないですが、中勢や北勢では外国の方々や労働者として多く働いており、市営住宅やアパートに居住し生活されています。

課題として、ゴミ出しの問題や学校、病院でのこと等、身近な課題が沢山出されました。



身近な課題として

- 1 病院に置いてある問診表に英語の記載がないため、何を聞かれているのか、何を伝えてよいか解らない。
- 2 学校から子供が学校通信を持ち帰っても、理解できない。
- 3 PTA活動に参加したくても、言葉が通じないので何をしても良いか理解できない等の意見が出されました。

私たち日本人からみれば、自分達で日本語を覚えれば済む事だと簡単に考えてしまいがちですが、逆の立場に立つてもっと親切に教えて欲しいとの意見や、多文化共生社会の実現に向けて行政が積極的に参加し、活動に対して予算化もして欲しいとの意見が寄せられました。

これから、多様な分野において労働力不足はますます進展するものと考えられます。

鳥羽市においても、観光、宿泊業、漁業等基幹産業の急激な労働力不足が深刻化してきており、私達も遅滞なくダイバーシティ（多文化共生）社会の推進を進めて行く必要があると考えています。

落語を活かして チケット活用の新しい試みも!

去る11月11日に、地域の活性化を目的として鳥羽市民文化会館で「落語寄席 in 鳥羽」が開催されました。主催は鳥羽商工会議所リノベーション委員会、出演は「月亭方正」と「林家菊丸」さんで、大変愉快なお話を聞かせてくれました。落語は大変面白かったのですが、もっと良かったのが、「月亭方正」さんが「大変いいですねー」と褒めていたのが今回のチケットの活用方法。



2000円の入場料で落語を堪能した後、残った半券で半分の1000円を地元商店街で金券として利用できる仕組みにしてみました。「こんなチケットを活かした町の活性化は全国でも始めてなのでは」と、終わりの挨拶で

鳥羽商工会議所リノベーション委員会の皆さんが知恵を出し合った結果だと思っています。これからも色々な企画をよろしくお願ひします。

10月 日々の活動

Table with 2 columns: Date and Activity. Activities include '本会議', '予算決算常任委員会', '全員協議会', etc.

11月

Table with 2 columns: Date and Activity. Activities include '大規模災害避難訓練', '鳥羽市民大会開会式', '国会審議聞き取り調査', etc.

インフルエンザの流行する季節です。皆さんお体を大切に、良いお年を御迎え下さい。 (Illustration of a person washing hands)

訓練が実施されました。そんな中で私が感心したのが、新たな取り組みとして、世帯ごとに高台の旧公民館にコンテナボックスを置き、飲料水や衣類、食料等を備蓄し、世帯ごとに分けて管理していることでした。



高台にある旧公民館に災害に備えた世帯毎のコンテナボックスを設置



災害に備えて 大規模津波防災総合訓練を実施

11月3日、国、県、四日市市、鳥羽市などの共催による、大規模津波防災総合訓練が行われました。訓練は、四日市港霞埠頭をメイン会場にし、サテライト会場として鳥羽市の桃取町でも行われ、私はサテライト会場に参加しました。参加された方はお年寄りの方が多かったです。急な階段が大変そうでしたが、確実に避難を実施し、中には中国からの研修生や障害のある方なども参加して、車椅子で階段を上る訓練や、お年寄りを背負って移動する訓練もあり、又、港では鳥羽海上保安部による物資の輸送や、空からは陸上自衛隊によるヘリコプターを使った物資の空輸、避難所では自衛隊と婦人会の皆さんによるおにぎりづくり、豚汁の炊き出しなど本番さながらの訓練が実施されました。

このコンテナに保管するものとして、子育て中の方は粉ミルクや紙オムツなどのように各家庭によつて中身は様々ですが、各自がそれぞれの消費期限も含めて責任を持って入れ替え管理する取り組みをしています。避難持ち出し袋など準備されている家庭も多いと思いますが、予期しない災害で被災してしまった時の事を考えれば、非常に役立つ取り組みであると思いますので、ぜひ各地域でも参考にして貰えればと思います。訓練の参加者も町民の半分の方が参加していたことから、桃取町民の防災意識の高さに感心したところでした。

三重むすび塾 東日本大震災の教訓を防災に活かすために

伊勢市の「はーとプラザみその」で、中日新聞社と仙台市の河北新報社の共催による、「三重むすび塾」が県内で始めて開催されました。2011年の東日本大震災の教訓を防災に活かすため、「観光地の伊勢で旅行者や住民が生きるために」をテーマに、語り部として三人の方のお話を聞くことができました。お三方の体験談は全て貴重なお話で、共通して語られていたのは、「これまでの津波はここまで来た事は無い」、「津波が来ても大した被害にあっていないといった安心感から母親、兄弟、両親をなくしてしまった」、「あの時そのまま一緒に避難していれば助かっていたのに」といった反省の言葉と、「地震は必ず来るから避難先を決めておく事」、「釜石の奇跡と言われるが、あれは釜石の訓練が活かされた事である」と口を揃えて言っておられました。その後、東北大学の今村教授からのお話もあり、大津波の襲来を想定したシミュレーション映像では、「紀伊半島沿岸部の津波到達は早い」、「津波は繰り返し襲ってくる」、「地形によってどの様に変化するか予想しにくい」との事でした。今後30年の間に南海トラフ大地震の起こる確率が70%から70%~80%に見直されました。「避難訓練には先ず参加する」、「揺れたら逃げろ」を実践するように心掛けましょう。

3・11東日本大震災の体験を聞く 観光客や従業員を命を守るために 平成30年11月30日(土) 午後6時~8時 ハートプラザみその 多目的ホール



この件については、伊勢志摩地域高校活性化協議会や鳥羽高校活性化協議会などで真剣に話し合いが行われていますが、地域全体で今一度鳥羽高校の存続の可否やあり方について考えてみませんか？

鳥羽高校存続の可否や在り方は... 去る10月9日、鳥羽市と鳥羽高校活性化協議会の共催により、鳥羽高校の存続を考えてみる試みとして、「鳥羽高校魅力アップセミナー」が行われました。講師の「公益財団法人みんなの夢をかなえる会」の中川直洋氏からは夢AWARDを通じて夢をかなえた事業の紹介や、今後の鳥羽市におけるビジネスモデルの可能性などの講演を、又「総務省地域力創造アドバイザー」の藤岡慎二氏からは、島根県立隠岐島前高校や広島県立大崎海星高校、長野県立白馬高校など、地域の特色を活かした総合学習によって定員割れが解消した事例などが紹介されました。鳥羽市唯一の鳥羽高校では、ここ何年か定員割れをしています。

鳥羽高校魅力アップセミナー